

人物を描く — 美人画と自画像 —

2018年9月22日(土)–10月21日(日)

最も長い歴史を持つ芸術ジャンルとされる肖像ですが、日本においても様々なかたちで人物の姿が表現されてきました。本展示では、館蔵・寄託の作品から、近代の日本画家たちによる美人画や、洋画家たちによる自画像を中心にご紹介いたします。



《芸能譜》(右隻) 中村貞以
昭和18年(1943)
本館蔵(住友コレクション)
※昨年度の修理後、初公開の予定。

コレクター山口謙四郎の眼

2018年9月22日(土)–10月21日(日)

本館蔵山口コレクションは、実業家・山口謙四郎(1886-1957)が蒐集した中国の彫刻125点・工芸99点からなります。



これらは制作された年代・地域も多様ですが、華美に陥らず趣のある作品が多いのが大きな特徴です。ここでは陶磁・金工をはじめとする工芸作品を中心にご紹介いたします。

《黄釉緑彩水注》長沙窯 唐時代・9世紀
本館蔵(山口コレクション)

おおさかの仏教美術 1

2018年9月22日(土)–10月21日(日)

当館は開館以来、近畿をはじめとする神社、寺院よりご宝物をお預かりしております。今回はそのうち、大阪府に所在する約50の社寺に伝来したご宝物をご紹介します。商都大阪の信仰のよりどころとなった社寺は文化財保護の担い手としても重要な役割を果たしてきました。幾度の天災、戦災を乗り越えて、この地に伝わった仏教美術作品をご覧ください。



重要文化財《仏涅槃図》(部分)
鎌倉-南北朝時代・14世紀 大阪・長宝寺

めでたづくし — 鍋島焼の吉祥文様 —

2018年11月27日(火)–2019年1月14日(月・祝)

江戸時代、佐賀藩から将軍家への献上品とされた鍋島焼。そこには技術の粋が尽くされるだけでなく、長寿や富貴など、おめでたい意味や幸福への願いを託した文様——吉祥文様が多く取り入れられています。新春を寿ぐにふさわしい、鍋島焼の世界をご堪能ください。



《色絵 松竹梅文皿》鍋島焼
江戸時代・17世紀末–18世紀初
本館蔵(田原コレクション)

辻愛造を歩く — 昭和風景アンティーク —

2018年11月27日(火)–2019年1月14日(月・祝)

辻愛造(1895-1964)は大阪市生まれの洋画家です。赤松麟作に師事、上京して太平洋画会研究所で学んだ後大阪に戻り、



《菊人形》辻愛造 昭和7年(1932)
本館蔵(寺澤清子氏寄贈)

国画会(国展)に出品を続けました。辻のライフワークともいえるべき関西の昭和風景—都市と自然—の魅力を、これまで未紹介の油彩画小品、スケッチ類とともに振り返ります。

江左の風流 — 六朝石刻書法 —

2018年11月27日(火)–2019年1月14日(月・祝)

3–6世紀、長江東岸の建業・建康(今の南京)を都に、呉・東晋・宋・齊・梁・陳の六つの漢民族王朝が興りました。貴族たちは爛熟した文化を育み、王羲之らが尺牘(書簡)などに妍妙な書を競いました。一方、数こそ少ないですが、本展でご覧いただくような優れた石刻の遺例も存しています。



《天發神讖碑》(部分)
呉・天璽元年(276)
本館蔵(師古齋コレクション)

啓蟄! 考古遺物コレクション

2019年2月16日(土)–3月24日(日)

当館のコレクションには鑑賞を目的として制作された美術作品だけでなく、出土した考古遺物も多く含まれます。土の中から顔を出したいわば歴史の証言者たちには人の手から手へ



《金銅 独鈷杵》伝鳥取県倉吉市出土 平安時代・11世紀
本館蔵(田万コレクション)

と伝わった伝世品とはまた違った味わいがあります。そのたたずまいをご堪能ください。

節句を彩る — 人形と漆工 —

2019年2月16日(土)–3月24日(日)

3月3日は桃の節句。本年は雛人形をはじめとして、京都を中心に製作された人形を展示いたします。人形製作の本場である京都において、数々の名品を生み出してきた丸平・大木平藏の人形は、



繊細な造形と華麗な衣裳などが見どころです。また端午の節句で飾られる武者人形の勇壮な姿や、節句にちなむ漆工品もご覧いただけます。

《端午蒔絵組杯(節句蒔絵組杯のうち)》
江戸時代・19世紀
本館蔵(カザールコレクション)